よくなった栄養状態　離乳にもう一考

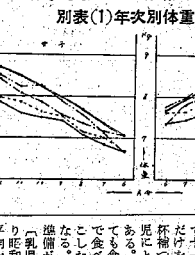
三年間の乳児検診成績

当市の国民健康保険では市民の健康増進のためいろいろの事業を行っている。その一つとして、昭和二十八年四月から満三ヵ月に達した乳児の検診を行って、病気を早めに発見し、心身共に健康に育つよう努めているが、このたび過去三年間の成績をまとめてみた（栄養状態）別表(1)(2)に示した通りで、だんだんよくなって来たが、離乳の不適当によると思われる、この時期の発育低下が目立っている。

（病病異常）金脱所に疾病異常は少くなって来た。殊に消化不良は減少した。疾病の大半は湿診体質（滲出性体質）によるものが多く体質改善によらねばならないが、これは胎児期に基礎が出来るから妊娠時期に充分な栄養をとる事が必要である。又蛋白特有のくる病が検診乳児の二割位もある。これはビタミンDの不足（日光浴不足）による骨の石灰化の障碍をおこす病気で、猫背O脚などはこの原因である。しかしここまでにならないとしても、乳児では、ビタミンDが不足すると抵抗力が非常に減弱し、他の病気にかかりやすくなる。

（離乳）離乳については理解されて来たが、まだ不適当に行われている。

別表(1)年次別体重比較表



別表の発育表を見てもわかるように十一ヵ月頃になると体重増加が殆んどなくなる。なぜであろうか。この頃になると運動とはこの原因である。しかしここまでにならないとしても、乳児では、ビタミンDの不足による栄養素が足らなくなるが、不足分だけ乳以外の食物を補つてくれるが、この原因のものが減つて来て十一ヵ月になるまで乳だけを一生懸命でやるのでは、乳児にとっては甚だ迷惑である。この結果は「与えても食べない」又「喜んで食べたが急に下痢をおこした」などと云う事になる。「たべ」などと云う事は、五、六ヵ月頃より進備が必要である。

（乳児死亡）別表(3)の通り昭和二十七年まで全国平均に比べ、二ヵ月以上の乳児死亡率は、昭和二十八年から急速に減少、昨年は出生千人について二十四人で二十七人となった。

別表(2)　年次別乳児検診成績

年次別 ＼ 項目	出生数	受診者数	栄養状態 甲	栄養状態 乙	栄養状態 丙	疾病異常ある者
昭和二八年	人六六	四四五	一六一（三六・九%）	二六六（六〇・〇%）	一四九（三・四%）	一三〇（二九・二%）
二九年	一、一〇〇	九六六	二六六（二七・一%）	五八八（六〇・八%）	一三三（一・三%）	一三一（一三・六%）
三〇年	一、一三一	一、〇〇〇	二六〇（二六・〇%）	六二〇（六二・〇%）	一一五（一・一五%）	一一五（一一・五%）

註（）内数字は受診者に対する百分率

別表(3)　年次別乳児死亡率（出生一、〇〇〇人対）

年次 ＼ 年	昭和三十年	三一年	三二年	三三年	三四年	三五年	三六年
全国平均	三七・八	三二・七	三〇・八	三〇・七	三〇・二	三〇・二	三〇・三
新津市	六二・三	六二・四	五三・二	四八・七	三三・三	二四・三	

夏にかゝりやすい病気

源染感 → 患者 保菌者の便 → 路経染感 → 人 → 赤痢菌

もし皆さんに、こんな様子が見えたらそれは……

1 お腹が痛、熱が出る。
2 一日数回から数十回下痢で、ときどき血液が混じる。
3 しぶり腹で、一度に出ず苦しい。

→ 赤痢

1 活発に遊んでいた子供が、数時間後急に元気がなくぐったり弱り、生あくびをする。
2 四十度前後の熱で、吐き、ひきつけ、腹痛あり。
3 腹は非常に軟かで綿を握る様な感じ。
4 ひきつけが深い眠りになると危険。

→ 腸チフス

1 熱が高く腹痛。
2 舌を見ると茶色で、厚いこけが出来る。
3 体中がだるく、食物が食べられぬ。

→ 腸チフス

恐しい病気

→ 赤痢

→ 腸チフス

応急手当は……

静かにねかせて、頭は氷枕で冷し、便は便器に取って医師に見せてから薬である。喝がかわいたら湯ざましを少しづつ与える。お腹はかいろなどで下腹を温める。

静かに寝かせて頭に氷枕で冷し、流腸して排便させ手足が冷えたら湯タンポで温め、ひきつけを起したら口は箸などに小布を細く巻いたものを口にくわえさせて舌を噛み切らぬ様に気をつける。最初の二、三日が最も危険です。

静かに寝かせて、頭を氷枕で冷す。かん腸はさけ、体温表をつけておくとよい。

赤痢や疫痢はどうしてうつるでしょう

1 患者を早く発見し、隔離する。
2 予防注射を受ける（腸・パラチフス）。
3 用便後、調理前、外出後、食事前に手を石けんで洗う。
4 蚊・蠅は伝染病を、ノミ・ダニ・ノミ・ダニ・ノミ・ダニ・